



東日本大震災復興支援活動(2011.5.18 岩手県大槌町)

## 目次

会長挨拶……………	P2	全国青樹祭開催1年前プレイベントを開催! (静岡県交通基盤部全国青樹祭推進課)……………	P12
静岡県くらし環境部長挨拶……………	P2	オープンガーデン講座を開催しました (静岡県経済産業部みかん園芸課)……………	P12
第32回通常総会……………	P3	小笠山総合運動公園 「緑地公園の活用シンポジウムinエコ2011」の開催 (静岡県交通基盤部公園緑地課)……………	P13
講演(清水建設株機大介氏)……………	P4	技士会だより	
社静岡県建設産業団体連合会会長表彰……………	P4	第二十六回通常総会開催……………	P14
支部だより(中部支部)		神原八朗氏が造園デザインを語る……………	P14
県立静岡農業高等学校のインターンシップ……………	P4	松くい虫被害の予防剤樹幹注入研修……………	P15
東日本大震災復興支援活動 (岩手県大槌町)……………	P7	社静岡県建設産業団体連合会会長表彰……………	P15
委員会だより(技術委員会)		協会誌……………	P15
壁面緑化の温度低減効果……………	P9	「花・緑タウンフェアin静岡2011」での 環境緑化啓発活動……………	P16
みどりのおたより			
～ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり計画～ (静岡県くらし環境部環境ふれあい課)……………	P12		



(社)静岡県造園緑化協会会長  
**片桐 利男**

暑中お見舞申し上げます。

今年は、例年より早い梅雨明けとなり、このほか厳しい暑さが連日続き、猛暑と言われた昨年を凌ぐような暑さの中、現場作業に従事されている皆さん方には、大変なご苦労であらうかと思われまふ。健康管理には充分にご苦労を頂けまして、厳しい夏を乗り越えられん事を願う次第です。

さて三月十一日に発生した東日本大震災も五カ月を過ぎ、被災された皆さん方には、この異常な暑さの中で不自由な避難生活を余儀なくされており、そのご苦労は、計り知れず、心よりお見舞いを申し上げます。二〇〇八年に発生した岩手、宮城沖地震でも大変な被害を受けその僅か三年、このたびの大震災は地震、大津波、原発事故と三重の想像を絶する大災害となり、一瞬にして多くの尊い人命を奪い家屋の倒壊流出というまさに悪夢のような事態に改めて自然災害の恐ろしさを痛感致しました。

私も協会は災害復旧の支援に立ち上がり、会員の派遣を要請致しました。東中西の各支部より多くの会員の賛同を頂き、重機やダンプトラック等準備して岩手県の被災地に行き、現地関係者の指示により延べ週間、散乱する瓦礫の処理等で支援作業に当りました。協会としての社会貢献事業の一環であり、現地の悪条件の中での作業にご協力頂きました会員の皆さんの改めて厚くお礼を申し上げます。

私も初日に現地に入り、目の前に広がる災害の爪跡を見て、報道で知る被災地の様子以上の悲惨さに深く胸を打たれ、一日も早い復旧を祈らずにはいられません。

でした。地震大国の日本で、いつ発生するかと言われ続けて久しい東海沖地震を考えますと他人事ではありません。予期せぬ突然の災害に対応出来るよう私も協会も災害特別支援活動の体制づくりに向けた計画を進めて参らねばならないと思っております。

私も業界は、ここ何年か厳しい状況下におかれ大変な苦しい時を過ごして参りました。今回のこの大震災により少なからず厳しさが増すものと思われまふが、今こそ会員相互の絆を段と強め、環境緑化のために長年に亘り携わり、今後也更なる社会貢献に努めるための協会の健全なる運営と会員の皆さん方におかれましても、それぞれ一企業としての発展に英知をしばり手を携えて険しい道のりを越えて参りたいものであります。

終わりに、再度、東日本大震災被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。



静岡県くらし環境部長  
**松浦 敏明**

社団法人静岡県造園緑化協会会員の皆様におかれましては、日ごろから緑豊かな住みよい県土づくりや緑化技術の発信など本県の緑あふれる生活環境の創造に御尽力いただき、深く感謝申し上げます。

はじめに、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にも心よりお見舞い申し上げます。

貴協会の被災地岩手県大槌町でのがれき撤去など、復興支援活動や義援金の支援に対し、心より敬意を表します。

県では、岩手県遠野市に静岡県現地地支援対策本

部を開設し、物資の提供、医療救護チームの派遣等の被災地への支援を行うとともに、県内への被災者の受け入れなどを実施しています。

東日本大震災並びに浜岡原子力発電所の全号機運転停止の影響によります電力供給の逼迫から、積極的な節電に努める必要がありますため、県庁舎から、積極的な節電対策とともに、全県を挙げた節電運動の盛り上げに取り組んでおります。このような中、まちの緑は、蒸散作用や日射の遮蔽による気温調整の効果も注目を集めており、貴協会による緑の普及啓発が期待される所です。

さて、県は、緑あふれる安らぎと潤いのある生活環境の保全・創造のために、昨年度「ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり」計画を策定しました。この計画では、ふじのくにの魅力がより向上するように、まちの緑の層の量的・質的な充実を図るため、緑化に携わる県民の皆様、緑化関係団体、市町等との連携を強化し、継続的な緑化を進めるとともに、公共施設だけでなくその隣接地も含めた体系的な緑化に取り組んでまいります。

また、昨年度から、芝生を軸とした都市緑化を推進するため、貴協会にも参加いただき、有識者等で構成する検討委員会において、本県に適した芝生緑化手法・管理手法などの検討を進めており、今後、検討成果を踏まえ、様々な施策を進めていきたいと考えております。

こうした施策を展開し、緑豊かなふじのくにづくりに推進していくためには、専門技術を備えた貴協会のお力添えが必要でありますので、会員の皆様方におかれましては、今後とも御協力いただきますようお願い申し上げます。

結びに当たり、貴協会のますますの御発展と会員の皆様御健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

法人移行に向けて



片桐利男会長

社団法人静岡県造園緑化協会は、四月二十八日、静岡労働会館において第三十二回通常総会を開催しました。開会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方々に全員で黙とうを捧げ、続く櫻井淳副会長のことばで開会しました。

最初に片桐利男会長は「大震災に伴い我々の経営環境はさらに厳しくなるが、英知をしばってできることを積み重ね、被災者の方々に思いを致し耐えていくとき」と挨拶し、表彰に移りました。



表彰を受ける中村氏

表彰では、功績顕著な次の会員並びに従業員の方々に、記念品を添えて表彰状が会長から渡されました。

- |          |              |   |
|----------|--------------|---|
| 赤池弘源     | 赤池造園株式会社     | 様 |
| 株式会社西野造園 | 様            |   |
| 塚本明寿     | 株式会社庭明       | 様 |
| 中村 哲     | 有限会社中村造園     | 様 |
| 村上千秋     | 株式会社伊豆急ハウジング | 様 |
| 稲葉憲一     | 株式会社藤浪造園     | 様 |
| 鈴木敏和     | 有限会社松島園      | 様 |

続いて、ご多用の中ご出席いただいた十六人のご来賓を代表し協会顧問の奥之山隆様、浜井卓男様並びに静岡県くらし・環境部長の松浦敏明様からそれぞれ協会への期待と激励のお言葉を頂きました。



左から鈴木氏、稲葉氏、村上氏



左から塚本氏、西野氏、赤池氏

次に、片桐会長を議長に選出し議事に入りました。議事は、第一号議案「平成22年度事業報告書及び財務諸表等承認の件」、第二号議案「平成23年度事業計画(案)及び取支予算書(案)等承認の件」、第三号議案の「平成23年度入会金及び年会費の額並びに納入時期及び納入方法決定の件」、第四号議案「定款変更承認の件」及び附帯決議案で、それぞれ審議の結果原案通りの承認が決議されました。

この中で、第四号議案「定款変更承認の件」は、今後、公益社団法人として認定を受けた場合、移行後の定款とすることについて承認を求めたもので、大きな変更点は、次の通りです。

議事終了後、会長は東日本大震災の現地での復興支援について、後日皆さんに話があれば協力して欲しいと呼び掛け、立木泰副会長のことばで総会は閉会しました。



松浦敏明氏



浜井卓男氏



奥之山隆氏

○目的について、新たに「自然災害復旧支援や勤労意欲者の就労支援など地域社会の健全な発展及び担い手となる造園緑化業の健全な育成を図り」という内容が加わりました。

○造園緑化業に限定されていた正会員について、目的に賛同すれば誰でも入会できることとなりました。これは、公益法人としては必須の条件となります。

○事業計画及び収支予算について、毎年度四月一日に予算が成立していなければならぬため、これまでは総会承認事項でしたが、理事会承認事項となりました。

その他の変更点につきましては承認された総会資料の定款案をご覧ください。

## 講演 都市緑化の現状と課題

総会終了後は、清水建設株式会社技術研究所主任研究員の橋大介氏にご講演をいただきました。

橋氏は、武蔵工業大学大学院を修了後、清水建設に入社され、屋上緑化、屋上ビオトープ、壁面緑化など緑化技術の開発に当たってこられました。工学博士



のほか一級土木施工管理技士、樹木医など多種多様な資格をお持ちで、清水建設の環境緑化技術をけん引されている方です。

講演では、屋上緑化の多彩な取組や防水技術、緑化効果などが紹介されるとともに都市型ビオトープが生物多様性に果たす役割について調査、検証結果を通じてお話しいただきました。

都市の緑化、ビオトープの目的は、生物多様性の保全が一般的にあげられるが、個人的見解と断りながら、面積、不連続性から十分育与するとは言えず、むしろ情操教育の場、生物多様性理念を学ぶ場として大きな意味があるとも認められました。今後の課題としては、緑地の整備とネットワークの形成・連携、アニマルパスウェイなど出現・飛来する動物に優しい環境提供、迷惑と考えられる生物への対処方法をあげ、講演は閉会しました。

した。

大企業が真摯に都市環境、緑化に向き合い取り組まれる姿勢に感銘を受けるとともに今後の環境緑化の推進にとつて示唆に富む意義深い講演となりました。



## 支部だより (中部支部)

### 県立静岡農業高等学校のインターンシップ

環境科学科2年 山崎 絢加

【実習先 静岡観葉園】

なにをするにも初めてのことがばかりでとても大変でしたが、貴重な体験をす

5月31日、静岡市の産業経済会館で開催された静岡県建設産業団体連合会通常総会の席上、株式会社杉山造園の杉山守氏は、建産連会長から表彰されました。

杉山氏は、技術向上、従業員の方々の厚生改善や後進の指導に尽力された功績が認められ表彰されました。



## （社）静岡県建設産業団体連合会会長表彰

ることができてよかったです。仕事をやる中で、ていねいにつかりと仕事をやる事も大切だが、すばやく、かつ的確に作業をすることも大事だと思います。また、授業ではなかなか体験できない事や、初めてやった事が多く、大変勉強にな

りました。これからの学校生活で役立させていきたいです。社会に出て、あたり前だができないといけない、あいさつや時間を守ることもなども教えていただき、もつとしっかりしないとけないと思います。インターシップで学んだたくさんのごことをしっかりと心に置いて、日々がんばってまいります。

4日間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



この写真は前日に車が入り込んでしまった藤枝市のセブンイレブンの花壇にツツジを植えている写真です。始めに土を平らにならし、スコップで穴をほり、そこにツツジを植えていきます。植える時

は枝の向きや、形などに注意して植えるなければならないので大変でした。最後にたっぷり水をかけます。その時もしっかりとツツジが植わるようにツツジをゆらして土なじむようにして完成です。



この写真は駿府公園の花壇の草花を植え替えるので草花を取り除いている写真です。一つの花壇にパンジーなど、596株の苗が植えてあります。それを一つ一つついでいねいに抜き土を落とすしていきます。一つの花壇を終わらせるのもすくく大変で、1日、2、3面ぐらしか終わりません。各花壇は各小中学校や、花の会の人たちがデザインし、植えていきます。その植える

までの花壇の土ならし、苗の手配などの準備は静岡観葉さんがやるそうです。すくく大変でしたが、いい思い出になりました。

### 環境科学科2年 若山 恵

#### 【実習先 関ひかり造園】

この4日間は本当に充実していました。初めてのインターシップで実際に職人さん達に教えていただくことがたくさんありました。授業で習っていたもの上手くいかないことがあったり、初めて見る道具や機械など貴重な体験でした。様々な人達と出会い、一緒に何かをやっていくのは責任を感じるし、何より邪魔はしたくなく緊張しながら取り組んでいる中、気を遣って話しかけて下さる姿に本当に助けていただきました。1日1日やる作業がたくさんあり、帰るころにはへとへとでしたが翌日には「今日も頑張ろう」という気持ちで元気に4日間を過ごせました。実際に会社に勤めることは大変だと知りました。しかし、続けていけるのはやはり、やりがいを感じていけるからだと思っていました。

この4日間は足手まといとなつてしまったかも知れませんが、学んだことをこれから学校や社会で生かしていきたいです。4日間は長いようで短く、あつとい

う間でした。この度は株式会社ひかり造園さんでお世話になることが出来てよかったです。



この写真は1日目の作業の様子です。

第二東名浜北インターチェンジのり面にマルチを張る作業でした。この作業を行う理由は、植栽する樹の周りの雑草の生長を妨げるようにするためです。私はこの写真のように15m間隔で置かれたM型ピンを金づちで打ちつけました。斜面での作業でのり面の土がすくくハサハサしていたので休養を維持するだけでも困難であり、かかんで打ちつけていくのは本当に大変であり怖かったです。現場の方々にも色々アドバイスを頂いたりとお充実した1日でした。

## 環境科学科2年 池上真弘

【実習先 樹小林木緑化】

この日は枝払いの必要があるクロマツの本数確認をしました。市道に枝が出てしまい交通の妨げとなり、すぐに枝払いしなければならないクロマツ112本を1本1本に蛍光ピンクのテープを巻きつけ、それに皿を付けて確認していく作業でした。112本という本数は市のほうで決められていたのですが枝払いが必要なものは112本以外にも何本もあり、後半の作業では残りの本数を先に最後まで数え、見極めながら本数が合うように他のものに変更し、無事終わらすことが出来ました。

造園屋さんのイメージは、職人という印象が強く、現場で働いている人達はいあまりしゃべらず気難しい人達だと思いい、このインターンシップはとても不安でした。

しかし、初日、実際に現場に行つておいさつをして一緒に作業をしてみるととても気さくで今まで抱えていたイメージとは180度逆の方々でした。現場で働いている人達の大半が僕達の先輩だというのに驚きました。また、作業現場の草薙総合運動場にはたくさん土木関係の業者が入つており、その人達もまた静農出身ということに驚きました。作業中、草薙総合運動場の所長さんに会い、「顔が輝いているよ」と褒められました。自分達が真剣に取り組んでいる所は、必ず誰かが見ているんだと思うと同時に、手を抜いている所、怠けている所も見られているんだ、と緊張感を持つことが出来ました。

4日間学んだこと、教わったことをこれからの実習中に活かしていきたいです。

この写真は、インターンシップ初日、現場に行き一番最初にさせてもらった作業の様子です。事業所の方が木に登ってバサバサ切り落とした枝を手製の熊手で片付けました。この作業は常に自分の上

から切った枝が落ちてくるので、剪定している人が今、木の上のどこで作業しているか逐一注意しなければなりません。大きく重たい枝が作業している自分の数メートル先に落ちてきたりど、とても緊張しましたが、プロの方が剪定した木、剪定の仕方が間近で見られる良いチャンスでした。



この写真は、カイツカイブキを剪定しているところです。カイツカイブキはよく公園などで用いられています。樹形が丸くキレイに見えるようにビヨビヨンと長く伸びているものを切つていきます。鱗片状葉といつてさわつても痛くない葉と針状葉といつて針のようにトゲトゲし

ていて、さわるととても痛い葉があり、普通は鱗片状葉なのですが、剪定の仕方が悪いと、針状葉が多くなつてしまいます。その針状葉もなるべく切つて自立たないようにはします。



# 東日本大震災 復興支援活動

## 支援活動の決定

3月11日、東日本大震災は、波高10m以上、最大遡上高40・5mの津波を起し、多くの尊い生命、財産、生活基盤を奪うなど壊滅的な被害をもたらしました。

社団法人静岡県造園緑化協会は、悲惨な被害の状況が伝えられる中、今出来ることとして3月31日、108万円を静岡県新聞社に寄託いたしました。



寄託する片桐会長

その後、現地でお手伝いをしようという声が高まり、東海大地震が想定されている地域の我々も他人事ではなく、少しでも役に立ちたいという想いと静岡県での復興活動にとうて貴重な経験にもなることから、被災地の復興支援活動の実施を5月12日に決定しました。

## 慌ただしく現地へ

決定後直ちに、会員に参加、機材提供を呼びかけたところ、短期間のうちに予定していた規模を超える機材26台（現地レンタル4台）、人員32人が集まりました。

5日後の17日早朝、静岡県危機管理部のご尽力により話を繋いでいただいていた岩手県大槌町に向けて、会員の篤い想いととも慌ただしく出発しました。

## 惨状に言葉を失う

出発の翌日18日、大地震が起きたとは思えないほど平靜に映る北上、遠野を通って釜石市に入ると景色は一変、凄まじい惨状に、皆言葉を失ってしまいました。それから押し黙ったままただ車を走らせ、9時過ぎには、大槌町での活動拠点とした津波で機能停止状態の浄化センターの駐車場に到着しました。

ほどなく大槌町地域整備課職員と世話役の地元業者の方が駆けつけ開始式を行いました。

町からは、本日朝の自衛隊との協議の結果、当初お願っていた地区から花輪田地区のおおつち保育園周辺と大ケ口地区の町営住宅周辺の2箇所に変更する指示があり、急きよ2班に分かれ、持ち場に向かいました。



城山公園から町の南東を望む  
(2011.5.20)



町の入口(2011.5.22)



町の中心市街地(2011.5.22)



浄化センターの駐車場にて(2011.5.18)

## 撤去活動はじまる

大ケ口町営住宅周辺地区では、町営住宅の脇に山積みされたおよそ2,000㎡の瓦礫を運び出す作業ですが、とても5日間では片付く量とは思えないほどの瓦礫の山でした。しかも瓦礫は、漂流物や貴、タイヤ、電化製品、木材、その他多様な家財道具が入り混じって置かれ、積みみする前の分別が手間のかかる作業となりました。

海から2.5km程度の大槌川沿いの平屋の町営住宅は、倒壊した家屋は無いものの、津波により冠水し、震災後、用途廃止が



瓦礫の分別、積み込み(2011.5.18)

決定、今年の秋には取り壊す予定となった古い住宅です。しかし、避難所を逃れるためか住民の住宅への出入りは多く、家具等を洗ったり、洗濯物を干したりする姿が見られました。住民の一人は「がんばって清掃していたが、取り壊しが決まり何にもする気がなくなつて、力がぬけた。それでも、よここへ来てどうして。ここは風が強く吹くところ、瓦礫が近くの住宅地へ飛んでいかないか心配していた。取り壊しが決まり撤去は後回しと思っていたらこんなに早く来てくれた。本当にありがたい。」と喜んでいただけました。



瓦礫の分別、積み込み(2011.5.22)

最終日あいにいた小規模様の中、掃りの片付け作業もあることから早めに切り上げてという声に、けりをつけて終わりたいという声も出てきた。町を後にする時には、綺麗にすべてを撤去することができました。



作業開始頃の瓦礫(2011.5.18)

おおつち保育園周辺地区では、津波が運んできたおよそ1,000㎡の土砂の撤去が主体でした。ここは、海から2km弱の小槌川右岸に位置し、海側にはパイパスが堤防のように盛土で建設されています。津波はこれを超えて押し寄せ、建物の一階部分は冠水したものの、車や住宅資材等の瓦礫は押し寄せなかったようです。



作業終了時の状況(2011.5.22)

しかし、「おおつち保育園」では津波が9名もの園児たちの未来を瞬間にして奪ってしまったと聞き、また、近くの住宅地では、お年寄り夫婦が2階へ逃げる間もなく1階でじくなつていたと聞いて、胸が熱くなつて会話は続きません。

活動を始めて間もなくの頃、保育園から、他人の敷地に流された倉庫の移動を頼まれ、役場指示(住民から個別に依頼されても断るよう指示されてきました。)に従えばお断りするべきでしたが、重機輸送用のユニックのクレーンを使って要望の場所に備え付け、保育園の理事長には大変喜んでいただきました。

住宅地では、狭い道の路肩に積み込まれた土砂の撤去がおおむね片付いたこと、住民の方から理まつている側溝の土砂も撤去して欲しいと要望されましたが、側溝から、瓦礫等が残つて

る小川、小槌川へと通じているようで、これらも除去する必要があり残された時間では困難でしたが、また役場の指示もあつてお断りすることなく、期待に沿えないことに心が痛みました。

住宅地の植木は赤くなり、周りの山々も火災の飛び火で立ち枯れが目立ちます。この緑の回復こそお手伝いしたいのですが、残念ながら現地の状況です。それどころではありません。美しい緑の町並みが早く戻ることを願い作業を終りました。

終了式では、世話役の地元業者がわざわざ来て、感謝の言葉とともに何度も何度も頭をさげていただきましたが、何故か悲しく胸が熱くなります。

保育園から、他人の敷地に流された倉庫の移動を頼まれ、役場指示(住民から個別に依頼されても断るよう指示されてきました。)に従えばお断りするべきでしたが、重機輸送用のユニックのクレーンを使って要望の場所に備え付け、保育園の理事長には大変喜んでいただきました。

住宅地では、狭い道の路肩に積み込まれた土砂の撤去がおおむね片付いたこと、住民の方から理まつている側溝の土砂も撤去して欲しいと要望されましたが、側溝から、瓦礫等が残つて



倉庫の吊り上げ作業(2011.5.18)



土砂の積込み(2011.5.20)



土砂の積込み(2011.5.18)

見違えるように片付いた状況に達成感を感じながらも、町を離れる際には、変わらぬ町の惨状、瓦礫の山の間を走りながら、虚しさを感じ、また申し訳なく思いながら、一日も早い安寧の日々が訪れることを祈り、7日間の活動を終え23日帰路につきました。

今回、会員が保有する小型機械だからこその災害復旧作業があることを確認できました。また皆が、共通して自然の力に衝撃を受ける、一方貴重な経験をすることができたことは、今後の大きな財産であり、協

### 活動終了 経験は財産



作業開始の頃の状況(2011.5.18)



作業終了時の状況(2011.5.22)

会、所属企業や地域での活躍を期待しています。

今回の活動では静岡県危機管理部をはじめ会員各位のご協力をいただいで実現できました。心より感謝申し上げます。

なお、今回の参加者は次の方々です。(敬称略)

- 市川明広、市川裕樹(市川造園)、八ヶ代幸、香田晴夫(園弘ヶ代造園)、片桐利男、高柳昌弘(園片桐造園建設)、松浦伊佐雄(片桐造園)、岩本桂典(園岩本造園)、塩澤浩、櫻井淳(園静岡クリンサービズ)、松浦智之(園富士造園)、藤浪義之(小長井裕也(園藤浪造園)、守谷春夫(園藤浪造園)、中藤良郎(園藤浪造園)、小林健史(園山千秋井桐造園)、小林土木緑化、西野 元(園望月造園)、丹羽亮太、森下和哉(園西野造園)、小澤正幸、高橋和哉、森田祥平(園小澤造園)、森延(園森延造園)、佐野由典(園不二見造園)、鈴木泉(園窓園)、半田健治(園植正園)、熊崎 実(園熊崎)

## 委員会だより (技術委員会)

### 壁面緑化の温度低減効果は

二十二年三月に『静岡新聞 放送会館』に設置した壁面緑化モデル施設について、昨年は植物の育成と並行して温度等の観測調査を行ってきました。本年も引き続き観測調査を行っています。

今回は、緑化面の外側と内側の気温の差に着目して報告します。



2011年6月14日



2010年8月17日

なお今後の方向やまとめの参考とするため、壁面緑化の温度低減効果に関する様々な機器等の研究報告を調べており、これらの内容から分析すると観測調査のデータの特徴、まためは、なお時間を要することとなりそうです。

### 緑化の状況

まず、壁面の緑化の状況ですが、気温観測機の直近の№6のパネルでは、全面積に対して昨年八月十七日の段階で7割程度、本年六月十四日で9割を超えた被覆状況と差はあるものの、日差しが長く当たるパネル下部では同程度の被覆状況となつていきます。

### 気温でみる温度低減効果

気温は、二メートル程度の高さに直射日光の当たらない状態で設置してある温湿度センサー機器、緑化面の内側№10と緑化面の外側№12によって観測しています。

ここでは、昨年八月と本年六・七月のデータをうち一日の最高気温の推移をグラフに示しました。(図のIとII)

いずれも、三十度以上では1℃から5℃程度の差が見ら

れ、緑化による温度低減効果の一部が表れていると考えます。これは、主に太陽熱と輻射熱をさえぎっている結果と植物の蒸散作用によるものですが、輻射散全体が気温に反映している訳ではありませんので、建物への低減効果は気温の差以上と考えられます。建物への低減効果については、10℃程度という研究報告があります。

また、被覆状況の差による影響は、今回のデータでは読み取ることはできません。次に本年の六、七月の日最高気温の差が一番大きい六月二十九日一日の気温の変化を比べてみました。(図のIII)

この図からは、植物の光合成が始まる日の出頃から日の入り頃までの間に温度差が表れています。これは植物の活動、蒸散作用によるもので、この温度差は高温になればなるほど大きくなります。特に29℃辺りから大きな差が出ています。こうした傾向は他の研究機関によっても同様の傾向が確認されています。

蒸散作用は、光合成に伴うものと植物自体の温度調整に伴うものがあり、ここでは29℃

辺りからその温度調整活動が活発になっていると推測され

### 使用する植物の種類

今回のモデルでは、主な緑化資材として地中海性気候のカナリア諸島原産とされる「ヘデラカナリー・エンスス」を使用しており、温帯の中の寒冷地原産の植物であればもう少し低い温度から蒸散作用が活発になるかもしれません。

植物種による蒸散作用の視点からも文献等を含め調査してみると、葉の面積が大きい植物、生長が速い植物、葉の気孔が多い植物、葉の量が多い植物、生長が大きい植物が温度低減効果を得るためには有利ではないかと考えられます。

静岡気象台の気温と比べると、午前中は緑化面のいずれもが低い数値で、午後になって緑化面の外側が高い数値と変わっています。これは、午前中は植物の光合成が盛んであることと調査地が西向きで緑化面での日差しが午後から当り始めることによるものと考えられます。

### クールアイランド

二十世紀において地球の平均気温が0.6℃程度上昇したのに対し、日本の都市部の平均気温はエネルギー、消費、人工排熱の増大や緑地などの減少に伴い2〜3℃上昇し、ヒートアイランド現象を招いているといわれています。

一方、緑被率が10%増えたと気温が0.3℃下がります。緑地では蒸散作用による冷たい空気が集まったクールアイランドとなることが報告されています。

日差しが強い日、静岡駅の西、昭和通りから国道1号を横断しJR東海道線高架下へ向かう際に、商工会議所前辺りになると、心地よい冷気の風を感じます。これはその先の鉄道と並行して走る道路のケヤキ並木によるものではないかと思

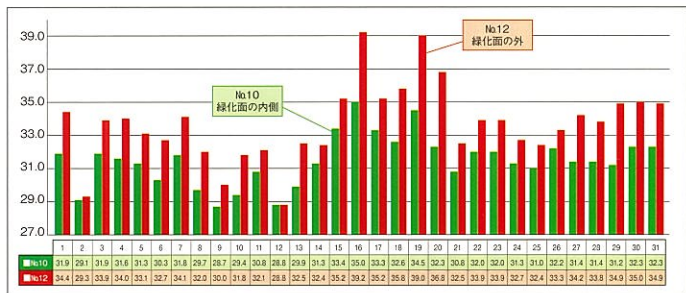
います。このケヤキは樹齡はそれほど大きくありませんが、電線の支線部分が一部切つてある以外は伸び伸びと育てられ、道路の天空を閉ざし、クールアイランドとなっているようです。地域の温度低減のためにも、緑地や緑のカートン、屋上緑化、庭園の樹木などがつながる緑の空間が、一層広がることを期待します。

### みどりのカーテンPR

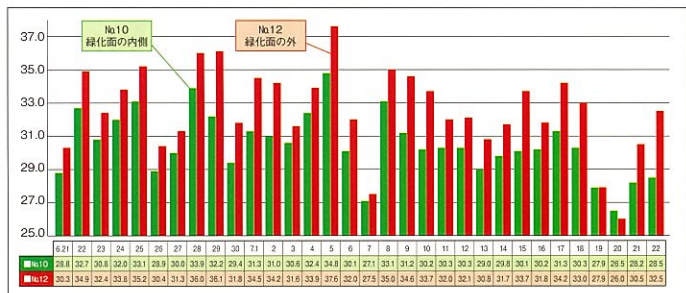
7月30日(土)、31日(日)、静岡市清水区のイオン清水店で壁面緑化モデル施設のパネル、データなどを展示、温度低減効果とみどりのカーテンをPRしました。これは予定していた催事が中止となったため、静岡市が開催していた「しずおか省エネ大作戦」体験型省エネコーナーという催事で急ぎぎ展示させていたいたものです。静岡市の環境局環境総務課、清流の部創造課のご配慮、ご協力により実現したもので、心より感謝申し上げます。

また、この展示コーナーでは東日本大震災復興支援活動も、パネルにより来客者に紹介しました。

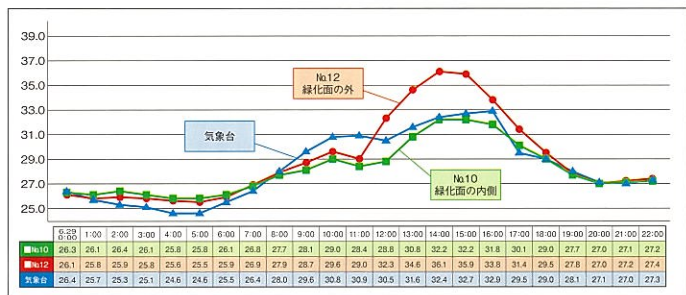




図Ⅰ 2010年8月の日最高気温



図Ⅱ 2011年6月21日～7月22日の日最高気温



図Ⅲ 2011年6月29日の気温の変化

## 静岡県ぐらし・環境部環境ふれあい課

ふじのくにの魅力を高める

## 花と緑のまちづくり計画

## 新計画の概要

静岡県では、平成23年3月に、新たに「ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり計画」を策定しました。本計画は、「花と緑にあふれた魅力あるまち」の形成を通じ、ふじのくにの魅力を高めることを目的とし、県民のくらし「生活空間」を対象にした平成32年度までの計画です。

## 計画の目指すところ

「花と緑にあふれた魅力あるまち」の形成を目指し、花と緑の「質」の向上と更なる「量」の充実を図り、緑あふれるやすらぎや潤いのある生活環境の保全創造を進めます。

このため、緑化を担う各主体（県民、事業者、緑化関係団体、行政）が、それぞれの役割に応じ、緑化に取り組むとともに、県民や団体などとの連携を強化し、公共的な空間（公共施設と公共的施設及びその隣接地を一体的、持続的な緑化を進めること）としていきます。

## 緑化の取組

本計画では、「花と緑の保全・創造」「花と緑のふつくり」を「県民参加の仕組みづくり」を基本方針とし、緑化の推進を図ります。

## ●花と緑の保全・創造

花と緑の質的、量的な充実を図るため、道路、河川、港湾、空港、都市公園文化施設等の公共施設は、県・市町が連携し、花と緑の充実を図ります。

また、多くの県民が利用する医療施設、社会福祉施設等の公共的施設や、公共的空間、住宅の庭や事業所では、緑化関係団体等と連携して、緑化を促進します。

## ●花と緑のふつくり

花と緑の担い手の養成のため、緑化関係団体等と連携し、花と緑の機能や効果などの情報提供や、普及啓発を進めます。また、技術講習会など、技術の習得や向上につながる場の提供を促進します。

## ●県民参加の仕組みづくり

県民等の緑化活動の活性化

を図るため、緑化関係団体と連携し、緑化資材提供等の活動支援や緑化活動の顕彰等を推進します。

## 社団法人静岡県

## 造園緑化協会との連携

まちの花と緑の造成・管理の作業は、土づくり、植栽、水遣り、施肥、病虫害防除、剪定、落ち葉清掃など多岐で長期間は、わたります。こうした作業は、

専門家である造園業者や施設管理者自ら、地域の方々の活動で行われています。まちの花と緑を長い期間にわたり、適切に造成・管理していくためには、高い技術力を有する造園業者との連携が必要です。また、造園業者の事業活動を通じた県民への花と緑の良い面、悪い面など正しい知識や技術の普及啓発も必要です。

ふじのくにの花と緑の魅力を高めていくためには、専門技術を有する貴方との連携は欠かせませんので、引き続きお力添えをお願いいたします。

## ○問合せ先

静岡県環境ふれあい課

## ○電話

〇五四一三二二一八四九九

## 静岡県交通基盤部全国育樹祭推進課

## 全国育樹祭開催1年前フレイベントを開催！

平成24年秋に開催する「第36回全国育樹祭」開催1年前を記念して、10月29日(土)に小笠山総合運動公園(以下、エコバ)で、11月27日(日)に天城ふるさと広場でフレイベントを開催します。

エコバサブアリーナでは、「資源としての森林活用」をテーマに、養老孟司氏による基調講演と、各界著名人4名によるパネルディスカッションを行います。

その他、森林・林業の展示物、産展や秋の森づくり県民大作

会を行います。実際には、山林の立木を伐採する実演も行いますので、最新の林業機械の効果をぜひご覧ください。伊豆市の収穫祭も同時開催しています。

いずれのイベントも、詳しくは、第36回全国育樹祭ホームページをご覧ください。

## 静岡県経済産業部みかん園芸課

## オープンガーデン

## 講座を開催しました

県では花と緑にあふれた美しい県づくりを推進する「花咲くしずおか」運動を展開し、地域や家庭での花壇づくりや庭づくりを推進しています。この運動の一環として、5月18日(水)と5月23日(月)にオープンガー



オープンガーデン見学(富士)



オープンガーデン見学(中途)

デン講座を開催し、2日間で101名の方にご参加いただきました。

両日とも午前中はオープンガーデンやガーデニングについての講演を受講し、午後は花盛りの春のお庭を見学しました。講演では、熱心にメモを取り、講師に積極的に質問をする姿が見られ、参加者の皆さんの意識の高さが感じられました。また見学では庭主から植物の育て方、来訪者との接し方、苦勞など色々な話を聞くことができ、すでにオープンガーデンを実施している方、これからチャレンジしようと思われている方たちにとって大いに参考になったと思います。

静岡県では、今後も講座の開催等を通してオープンガーデン活動を推進していきます。

	第1回	第2回
日時	平成23年5月18日(水)	平成23年5月23日(月)
場所	中遠総合庁舎及び中遠地区のオープンガーデン3軒	富士総合庁舎及び富士地区のオープンガーデン4軒
内容	<p>年表</p> <p>講演 「庭園草を中心とした草づくり」 講師 松島義隆氏 (グリーンアドバイザー)</p> <p>年表</p> <p>オープンガーデン見学</p>	<p>年表</p> <p>講演 「今の管理方法について」 講師 山本健生氏 (河津バグレン公園職員)</p> <p>年表</p> <p>オープンガーデン見学</p>



熱心に聴き入る参加者



講演の様子

平成13年度にオープンして以来、県を代表するトップレベルの競技施設としての道を歩んでいるエコパですが、同時に170haに及ぶ自然観察の森や保全森林があります。公園を開設する前からエコパ周辺の動植物や環境への影響の調査・

小笠山総合運動公園(愛称エコパ)では、平成23年7月8日(金)にエコパ主催「富士常葉大学附属環境防災研究所との共催で「緑地公園の活用シンポジウム in エコパ2011」が開催されました。



シンポジウム

習施設遊木木の森、榎原さんなどの森の皆様が、それぞれの公園における工夫を凝らしたオリジナルな取り組みを発表しました。事例発表のあと、エコパ自然塾(塾長でもある富士常葉大学の山田辰美先生がコーディネーター)となって自然体験・環境学習

大將養成講座や「万葉講座」の活動について報告がありました。また、県内の自然公園の活動事例として、「磐田市竜洋昆虫自然観察公園」、「磐田市桶ヶ谷ビジターセンター」、「静岡県立森林公園」、「しずおか里山体験学習施設遊木木の森」(榎原さん)の森の皆様が、それぞれの公園における工夫を凝らしたオリジナルな取り組みを発表しました。事例発表のあと、エコパ自然塾(塾長でもある富士常葉大学の山田辰美先生がコーディネーター)となって自然体験・環境学習

オオタカの生息やビオトープの植物相、貴重種の調査なども行っており、現在でも、ボランティアの皆様により、よい環境を保ち、自然と融れ合うためにもさまざまな活動が行われております。

このシンポジウムでは、エコパが自主事業として実施している「エコパ自然塾」・「親子50組を募集し通年式で年7回開催」での活動「大入向けの自然塾である「ガキ



パネルディスカッション

推進のための緑地公園の役割についてのパネルディスカッションを行いました。子どもと一緒に自然体験をさせておくことがとても大切だと改めて感じられました。

今回のシンポジウムが回を重ね、エコパが自然環境保全や環境教育の発信の場としても発展していくことを期待しています。

なお、エコパスタジアムでは、6月に開園10周年を記念して「エコパスポートミュージアム」を開設し、「又キコ五輪の銅メダル」や「当時のユニフォーム」を展示しております。また、9月17日まで、なでしこジャパンが活躍した「FIFA女子ワールドカップドイツ2011報道写真展 in エコパ」を開催中です。スタジアム自由見学日に無料開放しておりますので、自然体験とあわせて、この機会にぜひお越しください。

静岡県交通基盤部公園緑地課  
小笠山総合運動公園「緑地公園の活用  
シンポジウム in エコパ2011」の開催

# 技士会だより

## 第二十八回通常総会開催



6月29日(水)、静岡市葵区の「静岡県産業経済会館」において開催しました。望月会長の挨拶、来賓の片桐利男(社)静岡県造園緑化協会会長の祝辞に続いて議案の審議を行い、平成22年度事業報告書、収支計算書等及び平成23年度事業計画

案、収支予算案は原案通り承認されました。  
また、会則の変更は、形式的で事務が煩雑化している部分を変更する趣旨で主な変更は次の通りです。  
○入会について、これまでの理事会承認を会長承認と改めました。  
○役員について、役員15名以内、監事2名以内と定数を削減し、常任理事の名称は廃止しました。  
○総会、理事会について、書面に代えることも可としました。これは形式的会議を縮減し、時間、予算を少しでも事業活動に充てる趣旨によるものです。  
○事業年度についても、毎年度6月1日からとし、これまでより1カ月遅くなりました。

○事業計画及び収支予算について、年度当初の事業支出を担保するため総会承認事項を改め理事会承認事項となりました。  
任期を終える役員について、新しい会則に基づき支部より推薦された理事、監事が原案どおり承認され、理事の互選の結果が会長から報告されました。一部を除き再任となった16名の新役員は次の通りです。  
以上で総会は閉会となりました。

会長	望月 勲彦
副会長	小林 昭二
〃	大石 春夫
〃	水野 豊
理事(東部支部長)	吉岡 愛策
理事(中部支部長)	大石誠三郎
理事(西部支部長)	衛藤 徹雄
理事	大森 貞信
理事	安本 昌弘
理事	村田 昌弘
理事	片桐 則行
理事	永井 慎吾
理事	岡本 正
監事	中野 孝三
監事	藤浪 義之

したが、今年度は、緑の空間を創り、守る技術者としての役割を果たすため、西部支部が中心となって、意義ある研修会を

## 神原八朗氏が造園デザインを語る



デザインは無限にあり、新しい自然を追究して欲しいなどと、神原氏はデザイン思考を惜しげもなく熱く語って頂き、予定の時間はあっという間に来てしまいました。

総会終了後、「私の造園デザイン思考」をテーマとした講演会を開催しました。  
日本の造園には、造る技術はあるがデザインとしてみると足りていません。デザイン、構図は線だけで表現することが基本です。そして図と地(空間)は逆転します。また、構図は近景、中景、遠景のゾーンで形成されるが一般的に遠近の構図が出来ていないのが現状です。



## 松くい虫被害の予防剤樹幹注入研修



講義の様子

松くい虫被害の予防剤の樹幹注入は増加する一方、不適切な注入により、守るべきマツに葉害、形成層障害も発生しています。

技士会では、予防剤の樹幹注入技術の向上を図るため平成23年2月2日(水)

3日(木)、富士市岩淵の富士川ふれあいホールにおいて研修会を開催しました。

受講者34名は二日間にわたる厳しい講義実習を無事修了することができました。

今後、松の保全を適正な技術で活躍していただくことを期待しています。

## (社)静岡県建設産業団体連合会会長表彰

5月31日、静岡市の産業経済会館で開催された静岡県建設産業団体連合会通常総会の席上、安本昌弘氏(静鉄建設株式会社)が、建産連会長から表彰されました。

安本氏は、技術の向上、後進の指導育成に尽力され、緑の環境づくりに貢献した功績が認められ表彰されました。



修了証の交付



樹幹注入実習

## 協会日誌

年月日	行事又は会議	年月日	行事又は会議
平成23年		5月31日	第36回全国育樹祭静岡県実行委員会設立会議及び総会
1月12日	(社)静岡県建設産業団体連合会新年賀詞交歓会	6月8日	静岡県森林・林業研究センター-振興協議会幹事会
1月14日	(社)静岡県造園緑化協会新年賀詞交歓会	6月9日	静岡県造園施工管理技士会常任理事会
2月1日	シニアワーク造園緑化講習会(浜松会場)開講式	6月9日	花・緑タウンフェア実行委員会第1回幹事会
2月16日	(社)静岡県緑化推進協会理事会・総会	6月16日	静岡県さくらの会通常総会
3月4日	花・緑タウンフェアin静岡2011(～6日まで)	6月20日	(社)静岡県緑化推進協会理事会・総会
3月11日	静岡県環境局ふれあい審法人検査	6月21日	技術委員会
3月15日	防災防静岡支部常任幹事、団体会長合同会議	6月23日	静岡県緑の安全推進協議会総会、講演会
3月16日	第2回ふじのくに花と緑の街づくり検討委員会	6月23日	「静岡県建設産業PR活動」第1回打合せ会議
3月24日	総務企画委員会	6月29日	静岡県造園施工管理技士会理事会・総会
3月29日	第4回役員会	7月1日	静岡県環境ビジネス協議会総会
4月7日	平成22年度監査	7月4日	防災防専門工事業者安全活動指導員・協力員打合せ会
4月12日	第1回理事会	7月7日	第1回花・緑タウンフェア実行委員会
4月14日	静岡県都市緑化推進対策事業費補助金検査	7月7日	静岡県森林・林業研究推進部会
4月26日	第3回芝草検討委員会	7月9日	造園施工管理技士受験対策講習会(～10日まで)
4月30日	(社)静岡県造園緑化協会第32回通常総会	7月12日	第4回芝草検討委員会
5月9日	美しいしずおか景観推進協議会総会	7月14日	啓発労働委員会
5月10日	東日本大震災被災地復興支援活動事前調査(～11日まで)	7月15日	防災防静岡支部主任-団体安全指導者会議
5月12日	防災防静岡支部主任-団体安全指導者会議	7月21日	花・緑タウンフェアin浜松2012第1回企画運営協議会
5月16日	防災防静岡支部安全指導者研修会	7月22日	(社)静岡県建設産業団体連合会常任理事会
5月17日	東日本大震災被災地復興支援活動(～23日まで)	8月4日	「静岡県建設産業PR活動」第2回打合せ会議
5月18日	(社)静岡県建設産業団体連合会常任理事会	8月9日	第4回静岡県景観審査委員会(書類審査)
5月25日	防災防静岡支部支部代表議員会	8月23日	(社)静岡県緑化推進協会理事会
5月26日	(社)日本造園建設業協会静岡県支部通常総会	8月29日	シニアワーク造園緑化講習会(静岡会場)開講式
5月31日	(社)静岡県建設産業団体連合会通常総会-会長表彰式	8月30日	育成管理巡回指導調査(9月9日まで)

# “花・緑タウンフェアin静岡2011”での環境緑化啓発活動

平成23年3月4日(金)から6日(日)にかけて、静岡市の呉服町通り、七間町通りとその周辺において開催された“花・緑タウンフェアin静岡2011”では、(財)静岡県造園緑化協会も中部支部の協力を得て参加し、環境緑化の普及啓発を行いました。

## 花・緑の利用提案



2月10日から3月10日まで実行委員会、財グリーンバンクとともに七間町通りのパーマニテラスに壁面装飾を施し展示

## 花と樹 春のお手入れセミナー



3月5日(土)、呉服町通りのふしみやビルで、約70名を集め庭の手入れを講義、土づくりに高い関心が寄せられ、参加者から好評

## 庭の展示 \*\*\*庭で遊ぼう\*\*\*



展示した庭で輪投げに興ずる子どもたち



クイズのヒントをお庭で探す参加者



緑の相談コーナーで気軽に相談

今年度は、“花・緑タウンフェアin浜松2012”として、3月2日(金)から4日(日)にJR浜松周辺で開催予定  
(財)静岡県造園緑化協会も参加の予定です。

平成23年8月30日発行

発行 社団法人 静岡県造園緑化協会 〒420-0031 静岡市葵区呉服町2丁目2番地 呉服町ビル4F  
TEL 054-253-0586 FAX 054-251-9205 ホームページ <http://www.kenchikunavi.ne.jp/220304/>  
編集 啓発労働委員会 題字 兼松文男氏